



つんの一で！

佐世保市立中里中学校

学校だより 第33号

文責 校長 川口 貴晴

令和8年1月26日(月)発行

- 【学校教育目標】 「自ら学び、考え、行動し、自ら『生きる力』を培う生徒の育成」
- 【めざす学校の姿】 「生徒が通いたくなる学校」「保護者が子どもを通わせたい学校」
「地域が自慢したくなる学校」「教職員が勤めたい学校」
- 【めざす生徒の姿】 「愛(合い)のある生徒」
～支え合い、学び合い、磨き合い、高め合い、励まし合い～
- 【めざす教師の姿】 「時代・社会の要請を理解し、自らの教師力・人間力を高める教師」
- 【めざす授業の姿】 「生徒の主体性・確かな学力・生きて働く力を育む授業」

ようこそ中里中へ！大歓迎！



1月20日(火)に、来年度4月に入学予定の児童を対象とした新入生説明会を実施しました。

本校の校区内にある中里小学校、皆瀬小学校、そして他

区から来られる児童を迎えての説明会で300名近い人が参加・出席しました。

まず最初に、校長から、児童・保護者への歓迎の言葉と令和7年度の「学校スローガン」と「生徒会スローガン」などを紹介しました。次に学校紹介の動画や授業参観、生徒会による英語授業の実演などを行いました。その後、入学のしおりを使っての入学時の必要事項などの説明、学校のきまりなどの話をしました。

1時間以上にわたる説明会でしたが、児童はきちんとした姿勢で、真剣に説明に耳を傾け、集中して会に臨んでいました。その立派な態度に感心させられるばかりでした。

説明会后に、シューズや体操服、ジャージなどの採寸を終えて元気に帰宅していきました。

短時間の説明でよくわからないところもあったかと思いますが、そんな時は、いつでも遠慮せず学校まで連絡を下さい。また校長室のドアはいつも開いていますので、いつでもお越し下さい。

児童のみなさん、そして保護者の皆様と4月に中里中学校で再会できることを楽しみにしております。その頃には、中里坂の桜も満開で、みなさんの入学を大歓迎していると思います。



校長からの挑戦状！解けるかな？

以前、コロナ禍真っ只中の時期に勤務していた学校で、臨時休校などがあって勉強面が心配な時に学校のHPで「校長からの挑戦状」というコーナーをつくっていました。どんな場所にいても、もっとたくさん、もっと深く学びたいと思っている人の役に立てばとの思いで始めました。その「挑戦状」は何号までいったか忘れてしまいましたが、多くの生徒が利用し、中には、印刷して家庭学習にしている生徒もいたようです。今は、個人のタブレットもあり、「挑戦状」などがなくても、広く・深く・詳しく学べる時代になったことを喜ばしく思います。

先日、その時の問題をいくつか発見しましたので、せっかくだからその中から出題してみます。

3年生は腕試しと思って、1・2年生は未来の予行練習と思ってチャレンジしてほしいと思います。

果たしてちゃんと解けるかな？

時差の問題はちょっと難問ですよ！

問1:時差の問題・・難問ですがチャレンジしよう！

Aさん家族が、日本からイギリス旅行に出かけた。

日本の成田空港を飛び立った飛行機は、西に向かって飛んだ。1月26日

の9時30分に日本を飛び立った飛行機

は、現地時間(イギリス)の1月26日の

15時30分に到着した。Aさん家族

が乗った飛行機の日本からイギリスまでの飛行時間は何時間ですか。



問2:頭のトレーニング・・思考を柔軟にして！

Bさんは、午前8時に家を出て、スポーツカーでデパートに買い物に向かった。そして、買い物をすませた後



同じ道をスポーツカーで引き返し、その日の正午までには帰宅する予定であった。ところが、デパートに行く途中の道が大渋滞で混んでいたため、デパートに着くまでに、予定していたよりも3倍の時間がかかってしまった。しかし、帰りはラッキーなことに道がすいていたので、行きの6倍のスピードでスポーツカーを走らせた。Bさんの計算では、行き帰り、同じスピードで走れば、ちょうど正午に帰宅できるはずだった。



さて、今回、Bさんは正午までに家に帰りつくことができたでしょうか。

ただし、デパートでの買い物の所要時間は、予定通りで、短縮などしなかったものとする。

さあ、どうですか？頭をフル回転させて考えましょう！ひょっとしたら、今回の「校長からの挑戦状」は高校入試の時に役立つかもね！

1月24日から「全国学校給食週間」

1月24日(土)から30日(金)は、「全国 学校給食週間」です。「全国学校給食週間」は、学校給食の意義や役割についてたくさんの人に知ってもらい、これからの学校給食について考えてもらうことを目的としています。本校でも、「給食や給食に携わる人に感謝し、食べることや自分の食生活などについて見直す意識をもとう」という目的で、様々な取組を行います。



では、改めて「日本の給食の歴史」について調べたことをお伝えします。

〈日本での学校給食は、明治22年に山形県鶴岡町(現在の鶴岡市)の小学校で、家庭が貧しくてお弁当を持ってこれない子どもたちのために無料で食事を提供したことから始まったといわれています。その後、全国に広まり実施されるようになりましたが、第二次世界大戦による食料不足によって中止せざるを得なくなりました。やがて戦争が終わり、昭和21年12月24日に東京、神奈川、千葉の3都県の学校で試験給食が実施されました。それ以来、12月24日を「学校給食感謝の日」と定めていましたが、冬休みと重なるため、1月24日から30日までの1週間を「全国学校給食週間」と決めました。〉と記されていました。

現在では、食べることが困難だったころから大きく変わり、偏った栄養摂取をはじめ生活習慣病の増加など、子どもたちの健康状態が心配されることから、バランスのよい食事のお手本として、学校給食は「生きた教材」の役割を担っています。

☆今年度の本校での取組☆

【給食に携わる方々への感謝の手紙を送ろう！】

1年生→パン屋さん、牛乳屋さん

2年生→給食センターの皆さん

3年生→配膳員さん

給食に携わる方々への一番の感謝の表現は、「心を込めてつくって下さった給食を残さず食べること」だと思いますが、本校では、まだまだ実現できていません。中学生の成長に欠かせない栄養価の高い給食でもありますので、少しずつでもいいので、残食を減らしていけたらと期待しています。

さあ、今日も感謝の思いをもって給食を残さずにいただきましょう！

※本校 HP の「今日の給食」のコーナーもよろしくお願いします。

高校入試が本格化してきました！

今年度は1月に入ってから高校入試がスタートし、先週は多くの私立高校で一般受験が行われました。もうしばらく私立高校の入試が続いて、ひと段落します。そして、2月に入ると佐世保高専、そして2月17日・18日の公立高校一般選抜と進んでいきます。すでに受験が終わり、結果が届いている生徒もいます。誰もが満足のいく結果とはいきませんが、多くの生徒が笑顔になる結果となっています。

受験を終えた生徒が異口同音に言っているのが「めっちゃ緊張した」、「努力(勉強・練習)不足だった」という言葉です。特に、面接の場面では、「人生初」とも言えるくらいの極度の緊張を味わったようです。でも、「練習してたからうまくいった」「勉強したところが出た」という生徒も何人もいました。やはり、**何事も積み重ね、不断の努力があってこそその自信＝地力・実力**なのだと思います。これから受験に向かう人は、「経験者」のアドバイスをしっかりと受け止め、自分の為に役立ててほしいと思います。

公立入試まで1か月を切りました。残された時間は誰にでも平等です。でも、その時間の使い方によって結果は不平等です。平等な時間は、浪費してしまえば空虚な時間となり、努力の時間にすれば未来を切り開く可能性を広げる時間となります。人生の中で、この4週間くらいは、自分の未来のために時間を有益に使ってほしいと願ってやみません。

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、

成らぬは人の為さぬなりけり」(上杉鷹山)

Do your best! You can do it! 頑張れ!

